

指定校番号	28096	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田大介	生徒指導主事	北野茂樹
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『生徒会活動』

取組のねらい『感謝、思いやりの心を育てる』

命の大切さや仲間の気持ちを考えられる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成する。

取組の具体的内容『ハートプロジェクト』

「ハートプロジェクト」
この取組は昨年度から始まり、今年度5月の生徒総会でも生徒会執行部から以下のように提案され、承認されて取り組んでいる。

- 大竹中学校「生命尊重の日」（5月23日）の取組を1年に1回ではなく、毎月各クラスが担当して発表を行い、命の大切さや仲間の気持ちをもっと考えることができるようにする。
- 日頃お世話になっている方、学校を支えてくださっている方に感謝の手紙を書いて送る。
- 「ハートフルボックス」を設置し、そこに誰かへの感謝の気持ちを書いて入れ、昼の放送で流す。



生徒総会の様子

取組の課題・創意工夫『協同』

創意工夫

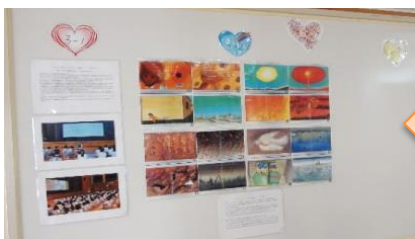
- 「3年1組の発表」
6月23日(木) 「平和」をテーマに、昨年度全国高校放送コンテストで準優勝に輝いた広島県立五日市高校放送部制作のラジオドキュメント『君に伝えたいこと』を紹介し、被爆者の方々の思いを大切に、人の命や人の気持ちを大事にできる人になりたいと訴えた。
この放送のあと、6月24日から3日間、熊本地震被災者への募金活動にも取り組み、その趣旨に賛同し、多くの生徒が募金に協力した。

(1年生の感想)「私は、生徒総会の時に、『ハートプロジェクト』を1ヶ月に1回やることに、正直言って反対していました。でも、この話を聞いて、自分の命や人の命の大切さを、今までよりもっと知ることができました。今日の発表を聞いて、1ヶ月に1回に反対したことを、今とても後かいています。これからは、もっとお話を聞きたいなと思いました。」



- 「3年3組の発表」
9月23日(金) 中学校の先生で、詩人でもある醍醐千里さんの「魂の約束」という詩を紹介し、「日頃の生活の中のあなたの笑いは、魂を輝かせる笑いなのか、魂をくもらせる笑いなのか、考えたことがありますか?」と問いかけた。

(2年生の感想)「私は、今日の話聞いて、神様から頂いた魂を大切に、人を大切にしたいと思いました。自分が悪いことをしたら「ごめんね」と、友達やいろいろな人に何かしてもらったら「ありがとう」と、たった一言だけど、自分の気持ちが伝わる一言なので、言葉を大切にしたいです。」



各クラスの発表内容は、1階の生徒会ボードに掲示し、振り返ることができるようにしている。

○「生徒会長による地域への発信」

7月2日(土)、サントピア大竹で開催された「市民のつどい」で、生徒会長が「ハートプロジェクトを通して」と題して、生命尊重をテーマに意見発表を行い、学校の取組を地域に発信した。

この作文を「青少年の非行・被害防止」「社会を明るくする運動」作文コンテストや人権作文コンテスト廿日市地区大会に応募したところ、大竹市長賞や優秀賞を受賞した。



○「2年1組の発表」

10月24日(月) 道徳の授業で学習した動物の殺処分について考えたことを発表した。日本では、飼い主の身勝手な理由で毎年10万匹以上の動物が保健所に連れて行かれ、人間の手で殺処分されている。この事実を多くの人に知ってもらい、動物の命を軽く扱う社会を変えようと訴えた。

(3年生の感想)「僕の家には犬がいるのですが、最後まで生きてほしいという気持ちで今育てています。自分の家で育てられないのだったら、最初から飼わないでほしい。人間も犬も最後まで生きようとしているのに、それを台無しにするなんて最低だ。ぼくはこんなことを思いながら聞きました。」

課題

○発表だけに終わらせず、発表に対しての他学年他クラスの生徒の感想を給食時に放送するなどして、双方の取組になるよう工夫する。

取組の成果(効果)『主体性』

- 生徒の感想の中にもあるように、自分や身の回りの人の生命の大切さなどについて考える機会が増えた。
- 発表内容をクラスで考えることで、自分たちで調べ考える良い機会となっている。
- 生徒たちが、先輩から引き継がれてきた生徒会の取組の良さを実感しており、生徒会活動に主体的に取り組む姿勢が見られる。



感謝や思いやりの心を大切にする
ハートプロジェクト



ハートプロジェクト 朝会での発表の様子

今後の展開『改善・工夫・発展』

○これまでの生徒会活動の成果や課題を整理して、生徒指導部、生徒会執行部等で、今後の取組の改善、工夫を図ることで、さらなる発展をめざす。そして、その内容をまず全教職員が共通理解して生徒の活動を支援し評価していく。

他校へのアドバイス『意識統一』

○生徒会活動の取組に対する教職員の意識統一、意識向上が必要である。また、これまでの取組をミドルリーダー等が次期担当教員や若手教員に計画的に指導、引き継ぎを行う。